

除草剤グリホサート耐性アルファルファ J101 系統及び低リグニンアルファルファ KK179 系統を掛け合わせた品種に係る食品健康影響評価について

1. 経緯

遺伝子組換えアルファルファ「除草剤グリホサート耐性アルファルファ J101 系統及び低リグニンアルファルファ KK179 系統を掛け合わせた品種」については、平成27年6月26日付けで遺伝子組換え食品の安全性審査の申請を受理したことから、食品安全基本法（平成15年法律第48号）第24条第1項の規定に基づき、食品安全委員会に食品健康影響評価を依頼するものである。

2. 評価依頼品種の概要

本品種は以下の表の遺伝子組換えアルファルファを伝統的な育種の手法を用いて掛け合わせたものである。

項 目	概 要	
品 種	除草剤グリホサート耐性アルファルファ J101 系統	低リグニンアルファルファ KK179 系統
製品の概要	改変 <i>cp4 epsps</i> 遺伝子の導入によって改変 CP4 EPSPS タンパク質が発現し、除草剤グリホサート耐性を示す。	<i>CCOMT</i> 遺伝子発現抑制カセットにより発現する転写産物によりアルファルファ内在性のリグニン生合成の主要な酵素であるカフェオイル CoA 3-O-メチルトランスフェラーゼ(<i>CCOMT</i> タンパク質)の発現が抑制されることで、地上部におけるリグニン含量が低下している。
宿 主	非組換えアルファルファ R2336 系統 (<i>Medicago sativa</i> L.)	
挿入遺伝子 (供与体)	改変 <i>cp4 epsps</i> 遺伝子 (<i>Agrobacterium</i> sp. CP4 株由来)	<i>CCOMT</i> 遺伝子断片 (アルファルファ (<i>Medicago sativa</i> L.))
選抜マーカー (供与体)	—	—
新たに獲得された性質	除草剤グリホサート耐性	低リグニン
安全性審査を経た旨の公表 (官報告示日)	2005 年 10 月 14 日	2015 年 5 月 11 日

3. 利用目的及び利用方法

本品種の食品としての利用目的や利用方法は、従来のアルファルファと相違はない。